

第34期(平成22年6月期)決算説明会資料

株式会社ユビテック
代表取締役 荻野 司
(大証HC 6662)

本日ご説明申し上げる情報のうち、業界の動向や分析、当社の計画・見通し・戦略等につきましては、将来の業績に関する予想値であり、現時点において入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

実際の業績はさまざまな重要な要素により、かかる予想値とは大きく異なる結果となる可能性がございますことをご了承下さい。

なお本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

- 会社概要

次世代ユビキタス技術の創造に挑戦

技術と顧客志向

ユビテック プロフィール

1977年11月	会社設立
1986年9月	新日本製鐵(株) の子会社となる
1993年4月	液晶プロジェクター用 映像エンジン の開発
1998年4月	ATM (現金自動支払機)、両替機用検知ユニットの開発
1999年4月	液晶テレビ用映像エンジンの開発
2002年4月	(株)インターネット総合研究所の100%子会社となる
2004年7月	タウ技研(株)から(株)IRIユビテックへと社名変更
2004年9月	パナソニック電工(株) 資本参加
2004年11月	三井物産(株) 資本参加
2004年10月	ISO14001・9001認証同時取得
2005年6月	大証ヘラクレス市場に上場 (証券コード:6662)
2006年8月	(株)ユビテックソリューションズ(旧(株)日本エンジニアリングシステム)を子会社化
2007年4月	ベトナムに「Ubiteq Solutions Vietnam, Ltd.」設立
2007年11月	オリックス(株) のグループ会社となる
2007年12月	(株)IRIユビテックから (株)ユビテック へと社名変更 パナソニック電工(株)資本提携発表(第二位大株主へ)
2008年7月	大阪事務所開設
2008年9月	オリックス自動車(株)カーシェアリングサービス「ブチレンタ」用車載システムを開発。
2008年11月	オフィス向けインターネットと設備制御の統合ゲートウェイ「BX-Office」を開発
2009年7月	BXシリーズ&UEW(ユビテックエネルギーウォッチャー)販売開始
2009年12月	ネットワンパートナーズ ㈱とBX-Officeの販売代理店契約を締結 ネットワンパートナーズ㈱から シスコ合同会社のルータ と当社のBX-Officeシリーズを組み合わせた CFMS by BX-Office販売
2010年7月	オリックス(株) の直接子会社となる BX-Office をSaaS TYPEに進化させた「UBITEQ-G-SERVER」、 「UBITEQ-G-PILOT」の提供開始

荻野 司 プロフィール

1986年キヤノン(株)入社。中央研究所を経て、ハードウェア及びソフトウェア設計等、新製品の開発に携わる。その後、ISP事業開始のため1996年ファストネット(株)へ出向。1999年同社取締役に就任。2000年(株)インターネット総合研究所(以下、IRI)執行役員に就任。同年(株)インターネットシーアンドオー代表取締役社長に就任し、キヤノングループやNTTファミリー企業とジョイントベンチャーによるMSP(Managed Service Provider)事業を起業する。

2000年から(社)日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)のIP担当理事を務め、日本におけるインターネットの普及基盤整備に尽力。また、IPv6普及・高度化推進協議会には設立時より参画し常務理事を務めIPv6普及の啓蒙活動にも注力。2002年にIRI取締役に就任し、同年、ユビキタス時代におけるネットワーク、コンピュータとの融合技術を中心とした研究・開発組織、ユビキタス研究所を設立。また、IPv6・センサネットワークキングコンソーシアム 運営委員を務め、non-PCや施設管理におけるインターネット利用など、次世代インターネットプロトコルIPv6を基軸としたインターネット高度利用研究にも注力。

2003年9月に(株)ユビテック代表取締役社長に就任し、2005年6月には大阪証券取引所ヘラクレススタンダードに同社の上場を果たす。(証券コード6662)

また、2005年からは、ワイヤレスブロードバンド推進協議会の発起人も務め、WiMAXを中心とする次世代インターネット技術の普及や啓蒙活動に注力する一方、現在は、ファシリティ分野におけるIT利活用のための活動として、東京大学におけるグリーンITプロジェクトに参画。ITを用いた「やりたくなる省エネ」の実現に注力している。

静岡大学創造科学技術大学院 客員教授(2004年-2009年)、同大学院アドバイザリー(現)も務める。

役員構成

明石直人(常務取締役) *常勤	(株)富士銀行(現 (株)みずほコーポレート銀行)等を経て平成16年2月入社
白木道人(取締役) *常勤	キヤノン(株)を経て、平成16年7月当社入社、常務昇格予定(2010年9月24日)
平田満(取締役) *常勤	新日本製鐵(株)より平成8年9月に当社出向、平成15年7月入社
藤原洋(社外取締役)	日本アイ・ビー・エム(株)、日立エンジニアリング(株)、(株)アスキーを経て(株)インターネット総合研究所を設立 代表取締役所長
徳田英幸(社外取締役)	カーネギーメロン大学 計算機学科を経て慶応義塾大学 政策・メディア研究科委員長 兼 環境情報学部長
江崎浩(社外取締役)	(株)東芝 総合研究所、ベルコア社、コロンビア大学CTRを経て東京大学 大学院教授
松井和明(社外監査役) *常勤	(株)富士銀行(現 (株)みずほコーポレート銀行)、(株)ジャックス 常務取締役を経て平成16年6月当社監査役就任
小林稔忠(社外監査役)	東京証券取引所、日本勧業角丸証券(現 みずほインベスターズ)公開引受部長、 (株)日本ソフトバンク(現 ソフトバンク(株))常務取締役を経て平成16年9月当社監査役就任
与謝野 肇(社外監査役)	(株)日本興業銀行(現 (株)みずほコーポレート銀行)、興銀インベストメント(株) 取締役社長、みずほキャピタル(株) 専務取締 役を経て平成16年9月当社監査役就任
高橋通(社外監査役)	キヤノンカメラ(株)、キヤノン(株) 取締役、Canon USA Inc. Executive Vice President & CTO, Canon Development Americas Inc. President &CEO を経て平成18年9月当社監査役就任

新任予定(2010年9月24日)

梁瀬行雄(社外取締役)	(株)あさひ銀行(現 (株)りそな銀行)頭取を経てオリックス(株)代表取締役社長・グループCOO兼(株)TDK取締役
野方孝之(取締役) *常勤	(株)日本債権信用銀行(現 (株)あおぞら銀行)、三洋電機(株)等を経て、平成18年6月当社入社

株主構成

(2010.7.8現在)

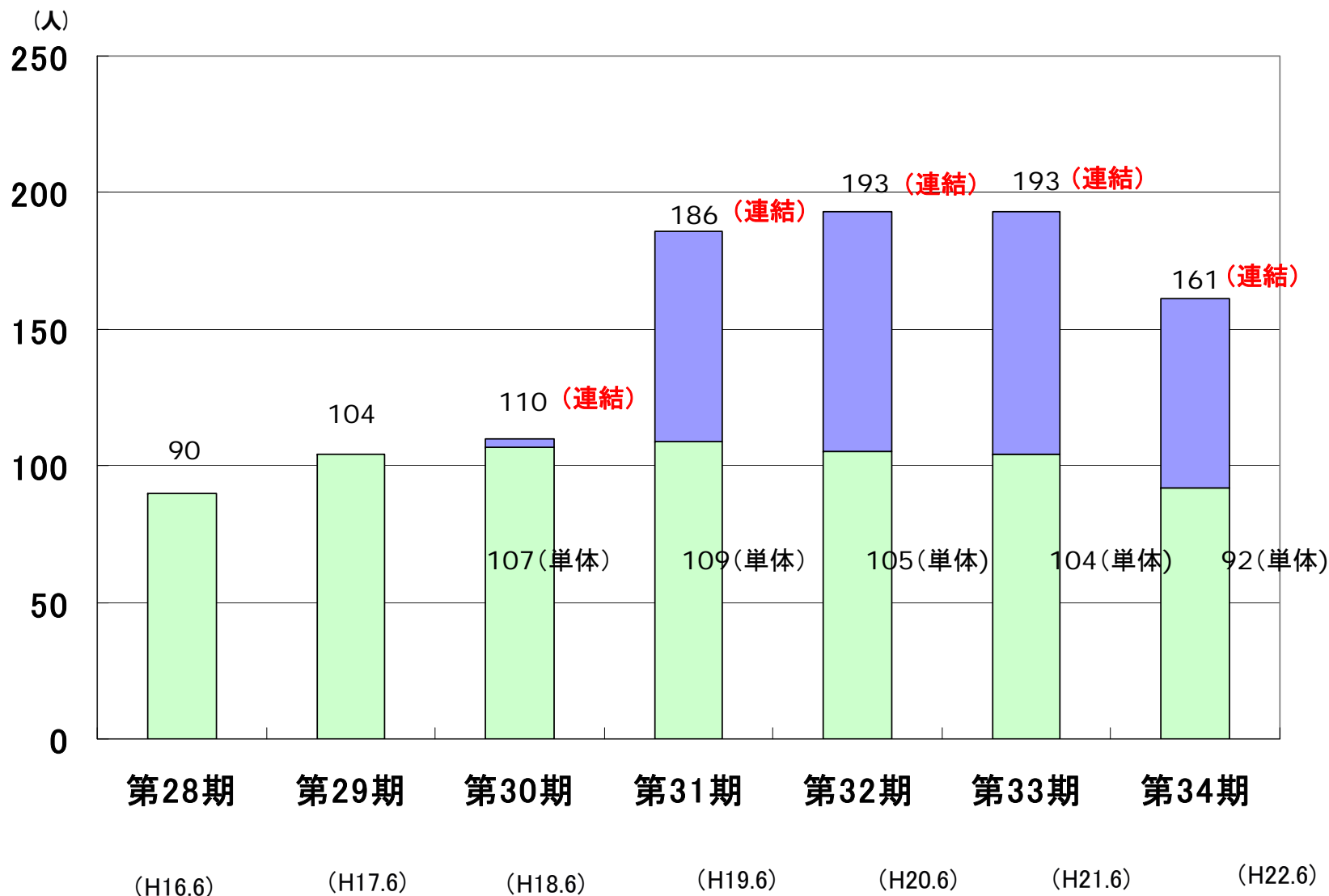
株主名	持株数(株)	出資比率(%)
オリックス株式会社	85,772	60.5
パナソニック電工株式会社	14,400	10.2
荻野 司	2,755	2.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	1,634	1.2
サン・クロレラ販売株式会社	1,550	1.1
その他	36,269	25.0
合計	142,380	100.00

※その他には、当社所有の自己株式1,400株(0.98%)が含まれています。
※2010年(平成22年)7月、株式譲渡により、親会社及び筆頭株主が株式会社
インターネット総合研究所からオリックス株式会社へ異動いたしました。
※出資比率は議決権数の比率を記載しております。

事業セグメントと主な事業内容

事業名称	主な事業内容	キーワード
電子機器事業	<ul style="list-style-type: none"> ● ATM(オートテラーマシン)や複写機に内蔵されている主要モジュールシステム 開発・生産業務 ● カーシェアリング車載システム等のサーバーと端末のセットソリューションサービスの開発・生産業務 ● デジタル情報家電(液晶TV等)向け映像エンジンシステムの開発・生産業務 ● ハードウェア設計、ファームウェア設計、量産化設計から生産までを一貫して実施 ● 上記テクノロジーを融合させた新技術の開発業務 	セキュリティモジュール スキャナセンサ カーシェアリング フルハイビジョン映像エンジン モジュール
モバイル・ユビキタス事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 携帯電話端末評価業務 ● IPネットワーク(有線・無線)設計・構築・運用支援業務 ● 次世代ネットワークングテクノロジー「IPv6」に関する技術開発業務 ● Web2.0テクノロジーを活用したWeb2.0ソリューション事業 ● 省エネ対応ソリューション開発 ● 組み込み型ソフトウェアの受託開発およびシステム開発等の人材派遣 	ユーザーエクスペリエンス WiMAX IPv6 SNS、マッシュアップGIS 省エネ 金融システム、医療システム

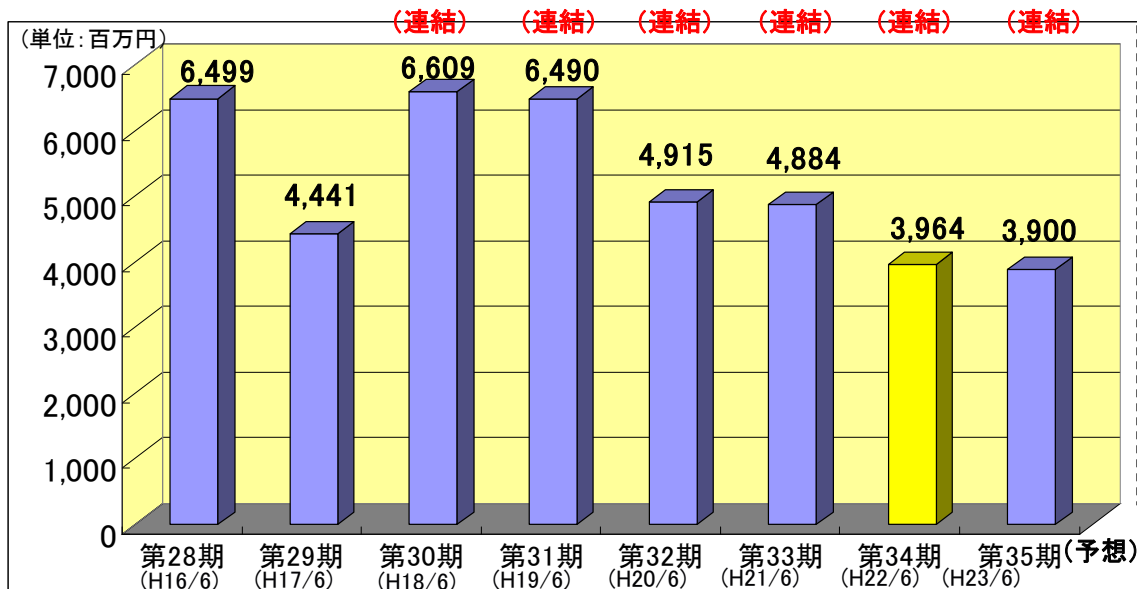
人員推移



注) 出向者、派遣、アルバイトスタッフなどは除いた人数となっております。

- 当社業績について

過去業績推移



業績トピックス

第28期: 売上高の半分以上はシャープ向け映像エンジン。

第29期: シャープ向け売上高大幅減少し、前期比売上高▲20億円となるも、高利益率案件確保し営業利益は前期比増加。

第30期: WiMAX支援事業により大幅増収増益。

第31期: WiMAX支援事業大幅減少するも、センサー事業(ATM等)・映像事業(UBIRIS)好調で売上高ほぼ横ばい。

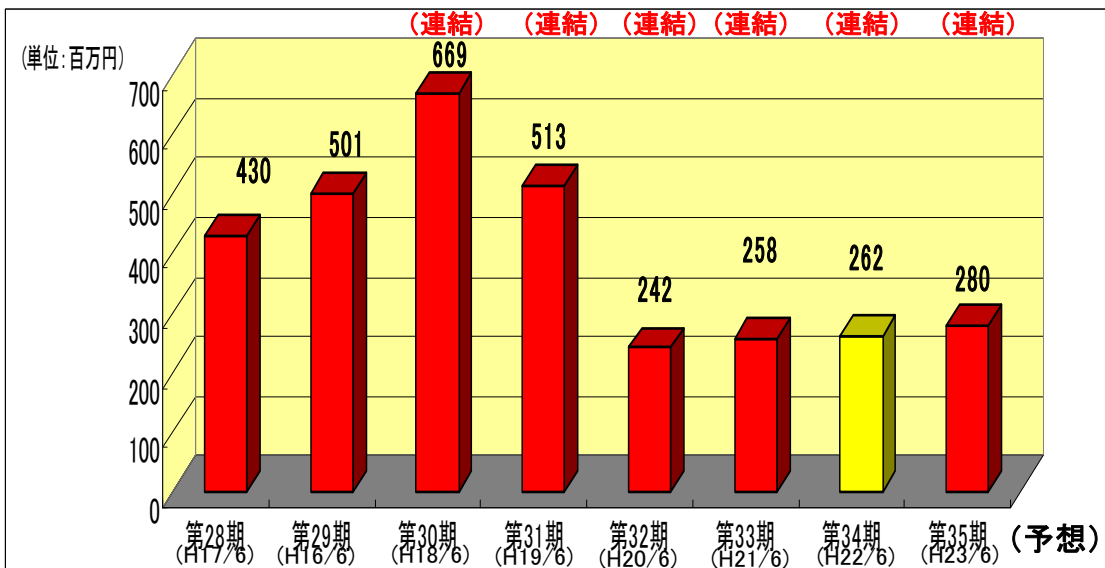
第32期: センサー事業大幅減少により前期比大幅減収減益。

第33期: モバイル事業・UBIRIS受注が減少したが、パナソニック電工からの受注増加、オリックス自動車向けカーシェア車載機販売開始により営業利益前期比微増。

第34期: モバイル事業、子会社の受注減及び電子機器既存量産品が減収となるも、コスト削減及び自社開発製品で営業利益は前期比微増

売上高

営業利益



※第30期(H18/6)より連結開始

第34期(平成22年6月期)決算概要

(単位:百万円)	第34期 (H22.6) 売上	前年 売上実績	前年比 (増減)	前年比 (%)	第34期 (H22.6) 営業利益	前年 営業利益 実績	前年比 (増減)	前年比 (%)
電子機器事業	1,959	2,383	△424	△17.8	330	157	172	109.6
モバイル・ユビキタ ス事業	2,004	2,500	△495	△19.8	275	500	△224	△44.9
共通費	—	—	—	—	△342	△399	57	14.3
合計	3,964	4,884	△920	△18.8	262	258	4	1.8

■セグメント別トピック

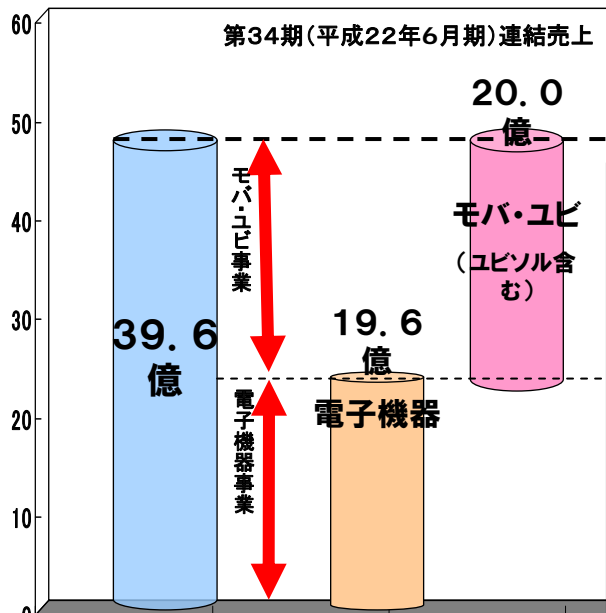
電子機器事業

- ・エレクトロニクス業界不振による影響を受け、主力製品の販売が減少
- ・業務効率化と仕入コストや外部委託費用の大幅削減、効率的な人員配置を実施
- ・オリックス自動車向けカーシェアリング車載システム開発、販売
- ・今後は、既存事業の継続とサーバーと端末を組み合わせた自社ソリューションサービスの立ち上げに注力

モバイル・ユビキタス事業

- ・携帯電話評価業務は、新規市場投入端末減少により売上減
- ・パナソニック電工との取引は順調に推移
- ・総務省公募案件「固定無線システムに関する調査検討」や独立行政法人情報処理推進機構(IPA)委託調査等を実施
- ・自社開発製品として「BX-Office」を進化させた、SaaSタイプの「UBITEQ-G-SERVER」、「UBITEQ-G-PILOT」の提供を開始

ユビテック事業一覧(セグメント別)



セグメント	現在	将来
電子機器事業	画像(センシング) 【顧客】フジノン、日立オムロンターミナルソリューションズ、富士通フロンテック他 【製品】スキャナセンサ、セキュリティモジュール、医療系センサモジュール	【展開】同業他社へ横展開 【製品】各種モジュールとネットワークの融合製品開発
	車載機端末 【顧客】オリエックス自動車 【製品】カーシェアリング用車載端末システム	【展開】テレメトリング関連サービスへ 【製品】ユビキタス端末
	映像(イメージング)・その他 【顧客】NEC、JVC、シャープ 産業機器メーカー他 【製品】映像エンジンモジュール(UBIRIS, Net UBIRIS, Mini UBIRIS, UBIRIS Pro) 【顧客】エクシング【製品】カラオケ関連端末	【展開】映像機器メーカーへ 【製品】高速化、高精細化
モバイル・ユビキタス事業	モバイル 【顧客】ソフトバンクモバイル 【サービス】携帯電話端末総合評価	【展開】携帯電話キャリアへ 【サービス】情報端末系
	ユビキタス 【顧客】パナソニック電工、SBI、日本医師会、総務省、IPA 他 【サービス】ネットワークおよびインフラの設計と構築(有線・無線)	【展開】CATV、住宅・不動産産業、テナントオフィスへ 【サービス】次世代ネットワーク、Web2.0、省エネ
子会社	ユビテックソリューションズ(ユビソル) 【顧客】アロカ、日本電子、JALインフォテック 【サービス】機器組込みソフトウェア開発、業務用アプリケーション開発	【展開】医療、通信メーカーへ 【サービス】機器組込みソフトウェア開発、業務用アプリケーション開発

貸借対照表(B/S)サマリー推移

(単位:百万円)		第30期	第31期	第32期	第33期	第34期
流動資産		4,757	3,803	3,477	3,411	3,519
	うち現金及び預金	2,125	1,808	1,507	1,876	2,273
	うち受取手形及び売掛金	1,988	1,564	1,457	1,121	1,003
固定資産		324	448	439	385	312
	うち有形固定資産	110	101	99	80	83
	うち無形固定資産	15	82	67	50	32
	うち投資その他資産	198	264	272	255	196
資産合計		5,081	4,251	3,917	3,796	3,832
流動負債		2,250	1,238	906	706	643
	うち支払手形及び買掛金	1,721	894	636	429	441
	うち短期借入金	—	6	—	—	—
固定負債		88	90	77	79	66
	うち長期借入金、社債等	—	7	—	—	—
負債合計		2,339	1,328	984	785	709
資本金		832	851	853	853	860
純資産合計		2,742	2,922	2,933	3,011	3,122

借り入れ
ゼロ

自己資本比率80.7%。高水準を維持。

キャッシュ・フロー(C/F)サマリー

(単位: 百万円)	第30期	第31期	第32期	第33期	第34期
営業活動によるキャッシュ・フロー	615	184	△90	402	419
投資活動によるキャッシュ・フロー	△47	△255	△131	4	△42
財務活動によるキャッシュ・フロー	△48	△252	△88	△34	△20
現金及び現金同等物の増減額	519	△317	△301	368	354
現金及び現金同等物の期首残高	1,606	2,125	1,808	1,507	1,876
現金及び現金同等物の期末残高	2,125	1,808	1,507	1,876	2,193

資金残高は過去最高

平成22年(2010年)

- 2010/7/21 ユビテック、省エネソリューション「BX-Office」を進化させ「SaaS TYPE」を提供開始～導入コスト削減と多拠点管理を実現～
- 2010/7/8 オリックスによるユビテック株式の取得について
～環境事業における技術革新・商品開発を推進～
- 2010/5/27 ユビテックとナノオプトニクス・エナジー、「Green Plant」構想で業務提携～鳥取県米子市工場へ、先進的な環境エネルギー計測・制御システムを導入～
- 2010/05/11 東大グリーンICTプロジェクトが東京大学第二本部棟のエネルギー見える化システムを構築
- 2010/04/15 IPA、「国内外の自動車の情報セキュリティ動向と意識向上策に関する調査報告書」を一般公開 ～ユビテックが自動車の情報セキュリティの現状と課題の調査に協力～

平成21年(2009年)

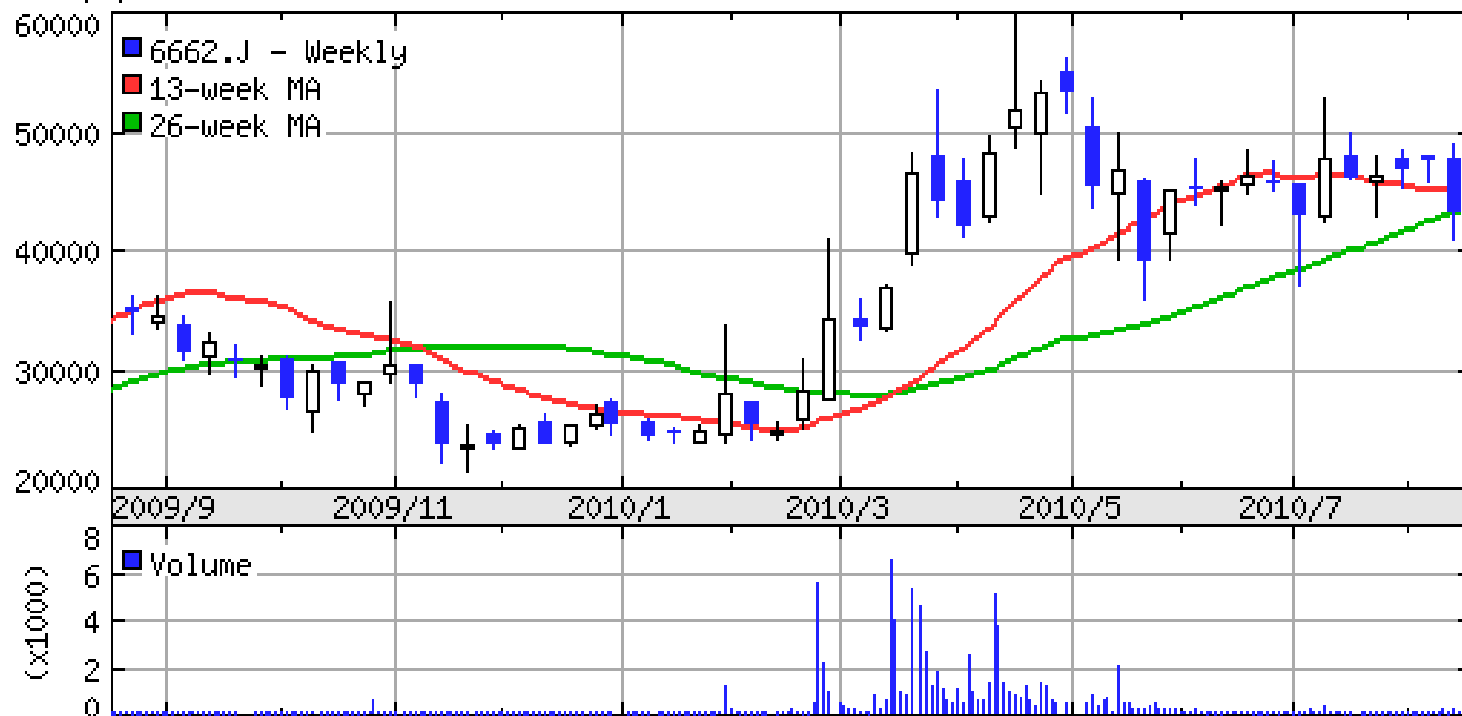
- 2009/12/09 ユビテック、エコデザイン2009国際シンポジウムにて「ITによる省エネ」成果を発表
- 2009/12/04 ネットワンパートナーズ(株)とBX-Officeの販売代理店契約を締結し、CFMS by BX-Officeを発売
- 2009/12/03 ユビテック、「宙博(そらはく) 2009」に環境ソリューション『BE GREEN』を出展
- 2009/11/27 ユビテック「製品評価ソリューション」の提供を開始 ～13年間200機種を超える携帯電話評価実績を活用～
- 2009/10/29 ユビテック グリーン東大工学部プロジェクトにて施設利用の無駄遣いを見える化！～BX-Officeで講義室と会議室の利用実態が明らかに～
- 2009/10/28 ユビテックが参画するグリーン東大工学部プロジェクト 日経BP社主催「グリーンITユーザーアワード プロジェクト賞」を受賞～
- 2009/10/05 グリーン東大工学部プロジェクトがグリーンITアワード2009・審査員特別賞を受賞～ユビテックのBX-OfficeがグリーンIT化実証実験で貢献～
- 2009/10/05 CEATEC JAPAN 2009のローム株式会社製「紙幣鑑別向けCIS」デモ機展示～ユビテック製イメージセンサ共通プラットフォームを使用～
- 2009/09/25 ストックオプション(新株予約権)発行内容確定に関するお知らせ
- 2009/09/09 ストックオプション(新株予約権)の発行に関するお知らせ
- 2009/08/04 社団法人日本医師会 学術促進センター第6回 日本e-Learning大賞で審査委員特別賞を受賞～ユビテックのWeb2.0技術を利用したSNSとe-Learningの融合システム～
- 2009/07/31 ユビテック 改正省エネ法支援ソリューション「Ubiteq Energy Watcher」を発売～複数拠点のエネルギーデータを一元管理～
- 2009/07/06 IPA、「組込みシステムのセキュリティへの取組みガイド」を一般公開～ユビテックが組込みシステム開発におけるセキュリティ対策の調査・研究に協力～

株価推移 (2010/8/16までのチャート)

Ubiteq INC.

2010/8/16

Splits: ▼



(C) 2010 Yahoo Japan Corporation.

<http://stocks.finance.yahoo.co.jp>

2005年12月20日	1株→2株の株式分割
2006年2月20日	立会外分売 827株
2006年4月7日	ブロックトレード 500株
2006年10月3日・5日	ブロックトレード 2,500株
2007年2月23日	自己株式取得完了(買付株式数:350株 買付総額:75,474,000円)
2009年4月1日	1株→4株の株式分割

1株当たり配当金

平成20年6月期配当実績	1,000円	
平成21年6月期配当実績	250円	(平成21年4月1日 株式4分割実施)
平成22年6月期配当予想	250円	

配当利回り 0.63% (平成22年8月16日 株価:42,000円)
配当性向 28.3% (平成22年6月期)

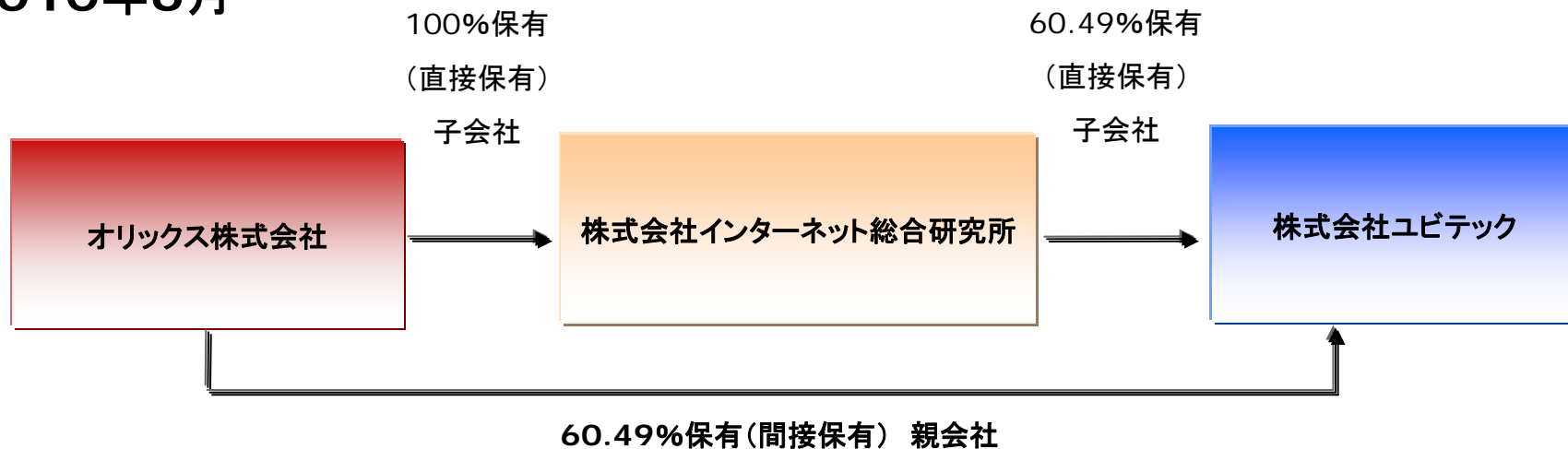
【基本方針】

下記2点をバランスを取りながら実施

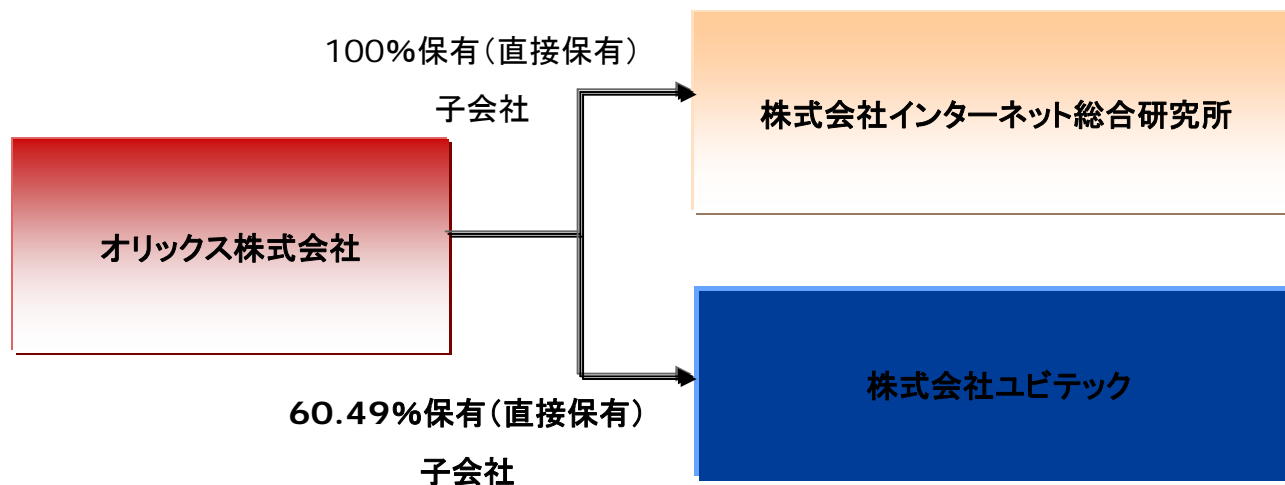
- ①企業価値の最大化に向けた内部留保の確保
→事業拡大、成長投資(人材への投資、設備投資等)
- ②株主の皆様への還元

オリックスの直接子会社へ

2010年6月

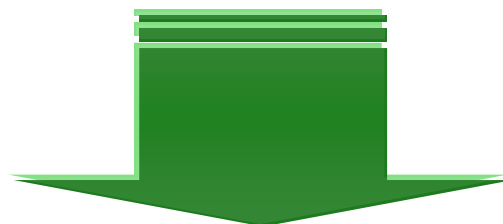


2010年7月以降



- 2010年7月

株式会社インターネット総合研究所が所有している
当社株式85,272株の全てをオリックス株式会社へ譲渡



オリックスの直接子会社となる

オリックス(株)梁瀬COOを非常勤取締役として招聘し(2010年9月24日)、ユビテックの注力事業(カーソリューション、ビルソリューション、家ソリューション)とオリックスの手がける事業のそれぞれの強みを生かしつつ、環境ソリューションである「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」を中心に自社製品・サービス開発及び拡販を進めていき、更なる成長を図る。

UBITEQ BE GREEN

～ユビテックはBE GREENソリューションを進化させ、
新しくUBITEQ BE GREEN SOLUTIONとして提供を開始します～

- 「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」とは、地球環境保全に向け、企業の課題を解決するユビテック新環境ソリューションです。
- 当社のユビキタス技術を駆使し、
「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」の実現を支援します。



UBITEQ ECO PROJECT

当社製品を活用した「省エネ・CO2削減」「安心・安全」
「業務効率化」環境を実現する「UBITEQ ECO PROJECT」
活動を全社的に推進しております。



また「UBITEQ ECO PROJECT」活動の
推進により、チャレンジ25参加法人
としての啓蒙活動も積極的に行っております。

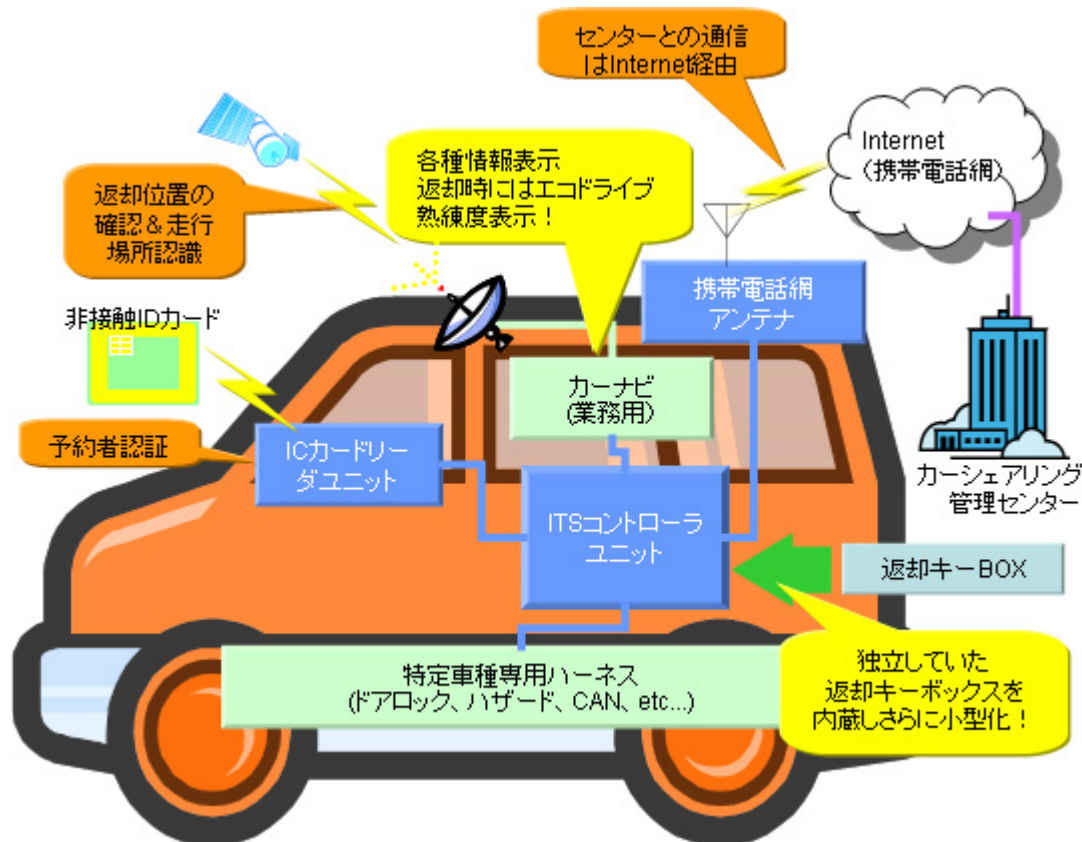
● UBITEQ BE GREEN SOLUTION製品

- BX-Office
- BX-Info
- BX-Energy
- BX-Room Viewer
- CFMS by BX-Office
- UBITEQ-G-SERVER
- UBITEQ-G-PILOT
- CFMS- II
- カーシェアリング車載システム

「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」の提供を
通じて、環境に優しい持続可能な社会（循環型社
会）作りに貢献していきます。

カーソリューション事業

＜無人でクルマの貸し出しができる仕組み＞



**ASP型サービス
サーバー上でアプリを提供**

**インフラを利活用！
無線・有線を使いこなす
モジュール・端末事業**



**オリックスグループとの協業第一弾！
車載機をユビテックによって開発。
2008年9月より納入を開始し、各地で稼働中**

● 経済産業省「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」

■ 大阪府が採択された電気自動車(EV)の導入促進と更なる低炭素化を図る「電気自動車(EV)導入・低炭素化加速実証事業」に参画

■ 4テーマから構成 当社は(d)に協力

(a)急速充電装置の最適配置実験及びシミュレータの開発

(b)おおさか充電インフラネットワークの構築・実証

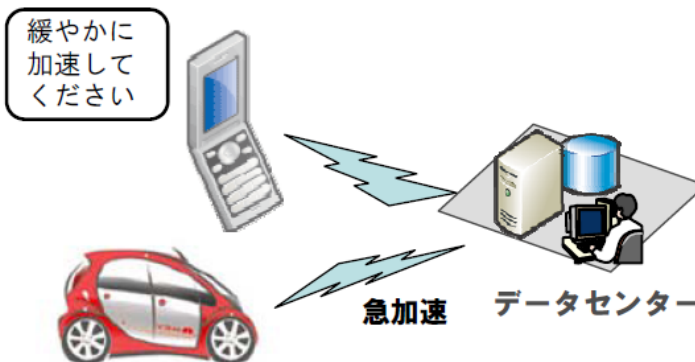
(c)充電装置予約照会システムの開発・実証

(d)EVエコドライブシステムの開発・実証

オリックス自動車と当社が開発したカーシェアリング車載システムを活用し、システムの開発と運用を実証していきます。

(d)EVエコドライブシステムの開発・実証

今後発売が予想される様々なEVに適用可能なエコドライブシステムを開発し、その運用を実証



大阪府 電気自動車(EV)導入・低炭素化加速実証事業 イメージより抜粋
http://www.pref.osaka.jp/hodo/attach/hodo-01211_4.pdf

● 「国内外の自動車の情報セキュリティ動向と意識向上策に関する調査報告書」

今まで培ってきた各情報家電や車載機端末の組込み機器開発における豊富な経験と技術を活かし、IPAが公開した「国内外の自動車の情報セキュリティ動向と意識向上策に関する調査報告書」の作成に協力。

● 経緯

- 車載コンピューター(ECU)の数の増加
- 自動車内の情報システムの共通化・ネットワーク化

攻撃手法の共通化
インターネットなどの外部ネットワークからの攻撃

- 自動車においても、PCを利用する場合と同様に情報セキュリティ上の脅威に備える必要が高まっている。

例) ECUのソフトウェアに悪意のある書換えがなされた場合は、勝手にブレーキを操作される、自動料金收受システムによる料金所通過を妨害される。

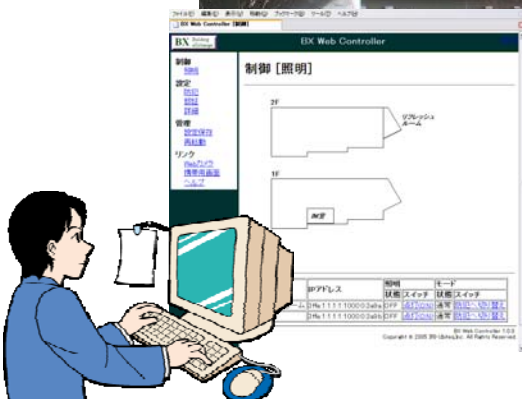
● ユビテックの協力内容

- 自動車セキュリティ検討会事務局として検討会の運営
- 調査
- 報告書の取りまとめ

環境エネルギー事業

UBITEQ BE GREEN SOLUTION
(UBITEQ-G-SERVER & UBITEQ-G-PILOT)

- 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス 慶応藤沢イノベーションビレッジの施設に採用
- 2006年3月からIPv6対応省エネ照明制御システムとして稼動を開始



- 照明機能
 - 照明リモート制御
 - 照明スケジュール機能
 - 照明のグルーピング、パターン設定
- センサ連動機能
 - 警備連動
 - 侵入者通知
 - 室内確認機能
 - 在室確認機能

- 2008年6月に産官学が協力し地球環境の保全と活動環境の改善を目指すことを目的として、研究開発活動を開始。
 - 都内最大のCO2 排出事業所である「東京大学本郷キャンパス工学部新2号館」を実証実験の場とし、最先端の省エネ・環境対策技術の統合化と評価を実施中。
 - 2009年10月には、本活動内容を評価され受賞。
 - グリーンIT推進協議会主催 グリーンITアワード2009・審査員特別賞
 - 日経BP社主催 グリーンITユーザーアワードプロジェクト賞
- ユビテックでは、発足当時より参画し、BX-Officeによる「照明
 用人感センサをマルチ活用した自動設備制御と稼動状況の見える化」について実証実験を実施中。

グリーン東大プロジェクトへの参画

<http://www.gutp.jp/>

グリーン東大プロジェクト
技術発展による地球環境への新たな取り組みの可能性

Green University of Tokyo Project

背景と活動方針

グリーンICTの実現
IDC等のICT機器・システムの省エネ化とCO2削減を促進した
地球環境負荷低減

プロジェクトの背景

東大全学CO2削減目標への貢献
2012年までに15%減
2030年までに50%減

東京都 環境確保条例の改正
都内の工場・事業場にCO2削減義務を課す
東大本部キャンパスは都内最大!

新ファシリティ マネジメント手法確立
協同都市経営・地域経営手法確立
新たな付加価値ビジネス創出

多くの分野で活用できる参画仕様書
キャンパス内
省エネ設備実証仕様書
省エネ効果ベンチマーキング仕様

活動方針

① 快速で効率的な 環境を構築することで、結果的に 省エネを実現する。
② 新しい利用法と ビジネス、産業を創出する。
③ 東大工学部が得意な、Pilot-ship Testbedではあるが、One of Testbeds である。
④ グローバル標準 を目指す。
⑤ "Eco-System" としての 省エネ・環境保全 システムを目指す。

アーキテクチャ

東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト

グリーン東大工学部プロジェクト

事務局

幹事会

グリーンIT推進協議会
日本アーテック協会
アジア開発銀行、台湾中華電信
中日グリーンシティプロジェクト

ステアリング委員会

コンセプトWG

見える化WG

制御WG

実証実験WG

プロトコル標準化WG

株式会社丸ビルニム 株式会社NTTアンソロジー オムロン株式会社 富士通株式会社 コソ株式会社 システムズ株式会社 システムズ株式会社 システムズ株式会社 システムズ株式会社 システムズ株式会社 システムズ株式会社 システムズ株式会社	株式会社竹中工務店 株式会社イー・エス・アイ 株式会社東芝 株式会社アパレル 株式会社日本インテック 日本電気株式会社 パナソニック株式会社 パナソニック株式会社 富士ゼロックス株式会社 富士通株式会社	三菱商事株式会社 株式会社三菱総合研究所 株式会社山武 株式会社日立デンタック 株式会社日本インテック 東京電機工業株式会社 伊藤忠商事株式会社 エーネットシステム グリーンIT推進協議会 社団法人電気学会	社団法人電気学会 慶應義塾大学 国立大学法人東京大学 国立大学法人東北大学 東京都 東京産業科学研究所 株式会社日立製作所 WIDEプロジェクト
--	--	--	--

参画主体: 26名以上1団体

グリーン東大工学部プロジェクト

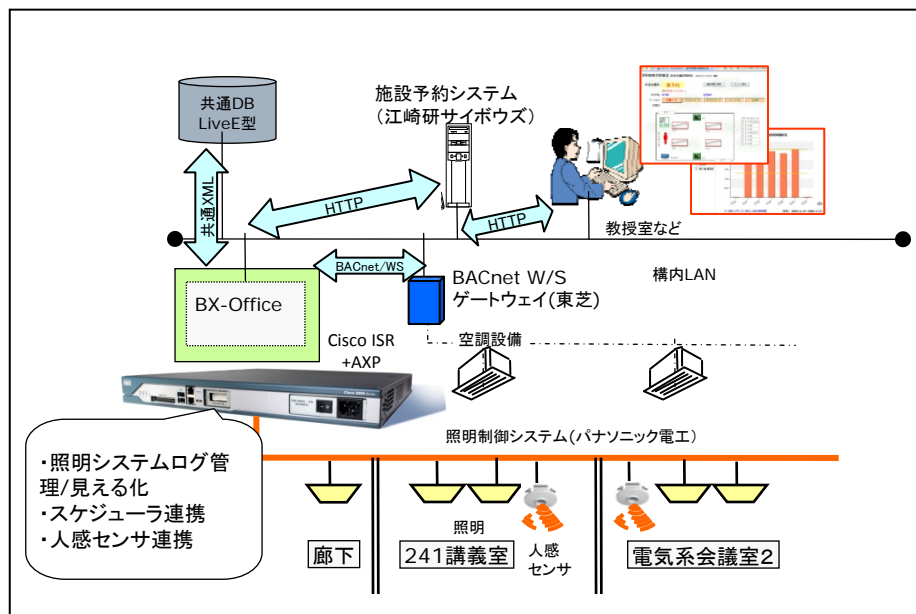
BE GREENソリューションで実証実験参加



グリーンITアワード2009・審査員特別賞
グリーンITユーザーアワード プロジェクト賞
受賞に貢献

システム構成図

BX-Officeによるデータ集計



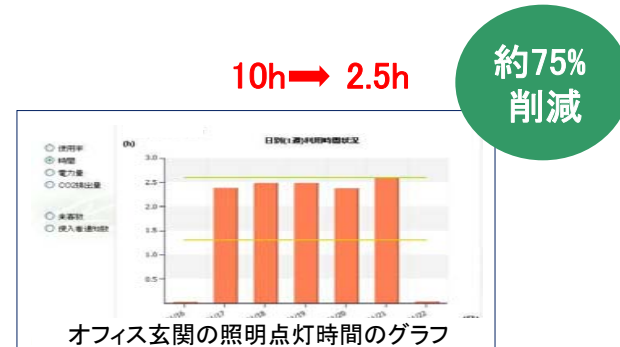
ITシステムと
設備システムの統合

マルチベンダ環境
の統合

グリーン東大工学部プロジェクトのランチ実験 サイトであるユビテックオフィスでの事例

1. 玄関照明の点灯時間

導入効果 22.5 [kWh/月] 削減
エネルギー使用量を約75%削減



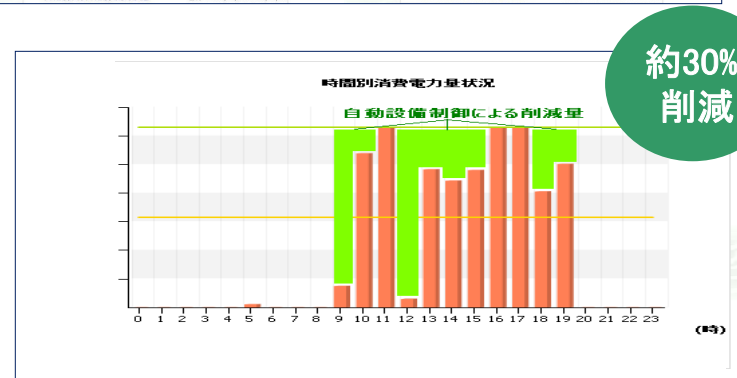
2. 商談室の照明点灯時間

導入効果 25.2 [kWh/月] 削減
エネルギー使用量を約80%削減



3. 会議室の設備稼働時間

導入効果 1,554.65 [kWh/月] 削減
エネルギー使用量を約30%削減



結果

会議室などの利用実態の把握
省エネ・効率の課題を見える化



1. 施設毎の問題点の原因分析により、削減対象と対策が明確化
2. 効率的な省エネ設計の立案を促進

《実績》 東大グリーンICTプロジェクト

東大グリーンICTプロジェクトとは・・・

グリーン東大工学部プロジェクトを2010年4月1日に全学の活動として再組織したものの。

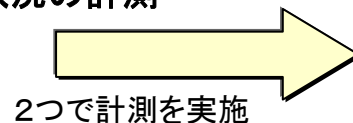
2010年5月11日、東京大学第二本部棟のエネルギー見える化システムを構築

ビルに設置された空調システム(ダイキン工業製)の運用状況・エネルギー消費を計測し、データをBX-Office経由でキャンパス外のインターネット上のデータサーバー(ユビテック製)に収集

従来のセキュリティ上の課題から構築が難しかった B・OAネットワークの統合

ビル内の空調システム状況の計測

- ・オンサイト
- ・遠隔センター

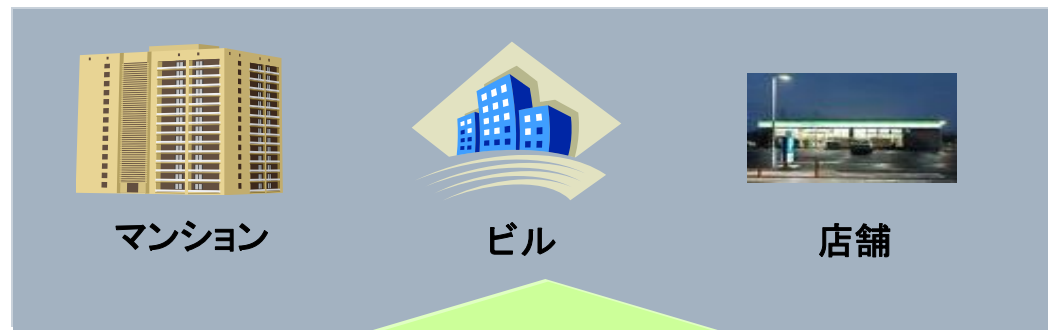


収集すべきデータの抽出
CO2削減に最適な収集データの決定

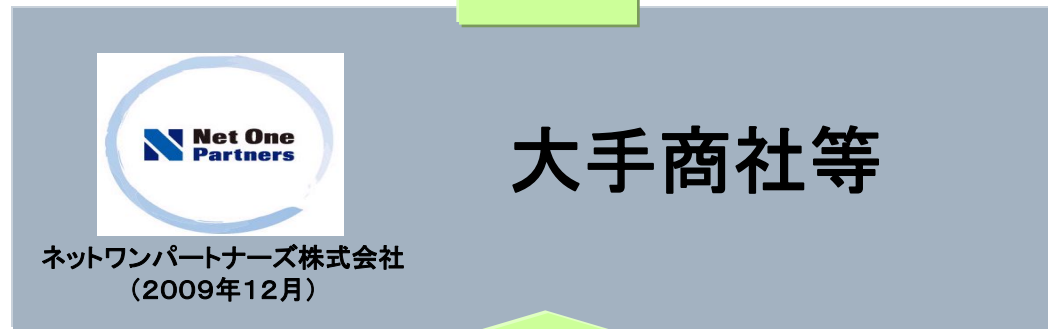
- 計測データからビル設備の運用実態を推定することで、消し忘れや過度な空調運転を検出し、省エネにつながる制御フィードバックが実現可能
- 収集データ: BX-Energyにて表示、運用のムダ部分を容易に把握

今後はこのシステムを使い全学のビル設備データ収集システムを構築し、詳細な設備の運用実態とムダを解析により、中小規模の建物の効率的なCO2削減手法のモデルケースの確立を目指す

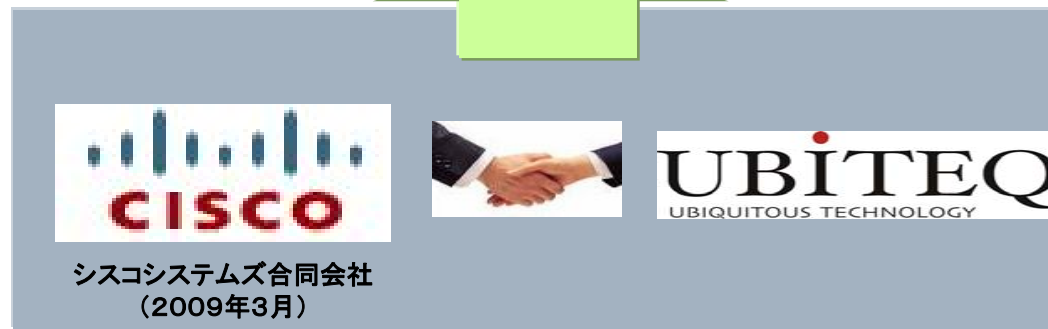
対象：
ビル・マンション・店舗向け
省エネソリューション



販売代理店



販売元



BX-Office ソリューション・イメージ

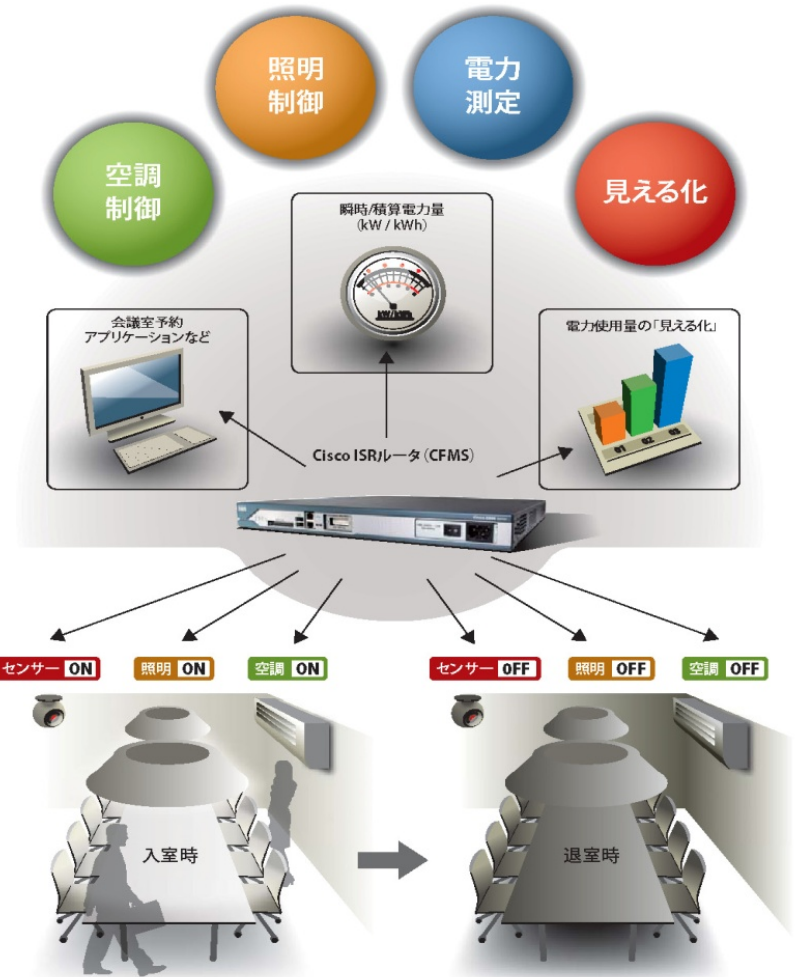
設備システムとITシステム
の統合ゲートウェイ

主要機能

- 照明・空調制御機能
- スケジュール連動
- 会議室の照明・空調稼働状況表示
- 会議室の予約状況、予約時間を見える化
- 電力計測器のログ取得・保存・集計
- 東京都環境確保条例報告書自動作成

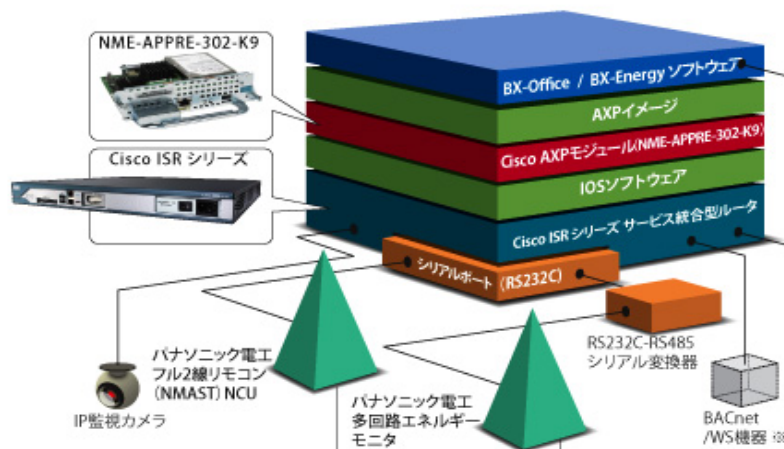
プラットフォームにCiscoルータ

(ISRシリーズ Cisco AXP内蔵)を選定



CFMS by BX-Office

ソリューション イメージ



BX-Office

- 高信頼ネットワーク構築
- 照明・空調制御
- セキュリティシステム連携
- スケジュール運動
- 会議室の照明・空調稼動状況表示
- 期間別使用率や未予約使用率のグラフ表示
- ポイント表によるレイアウト自動生成機能
- メール送信機能 (予約会議室の未使用通知等)



BX-Officeによる照明、空調制御イメージ

BX-Room Viewer

- 会議室の空室、予約状況のレイアウト表示
- 会議室の予約状況や予約時間を見る化
- 会議室のレイアウトを簡単作成

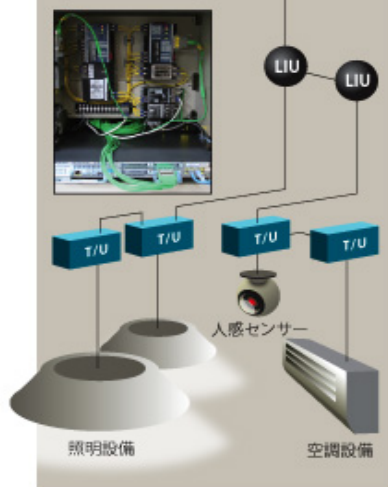


Webブラウザで各種設定・制御

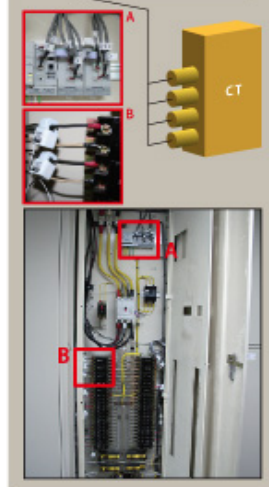


BX-Room Viewerによる会議室管理イメージ

オフィス設備制御



電力モニタリング

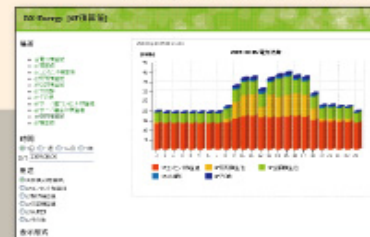


BX-Energy

- 電力計測器のログ取得・保存・集計
- リアルタイム・期間別比較電力グラフ表示
- 東京都環境確保条例報告書自動作成
- メール送信機能 (ピーク値警告など)



BX-Energyによる多彩な電力モニタグラフ



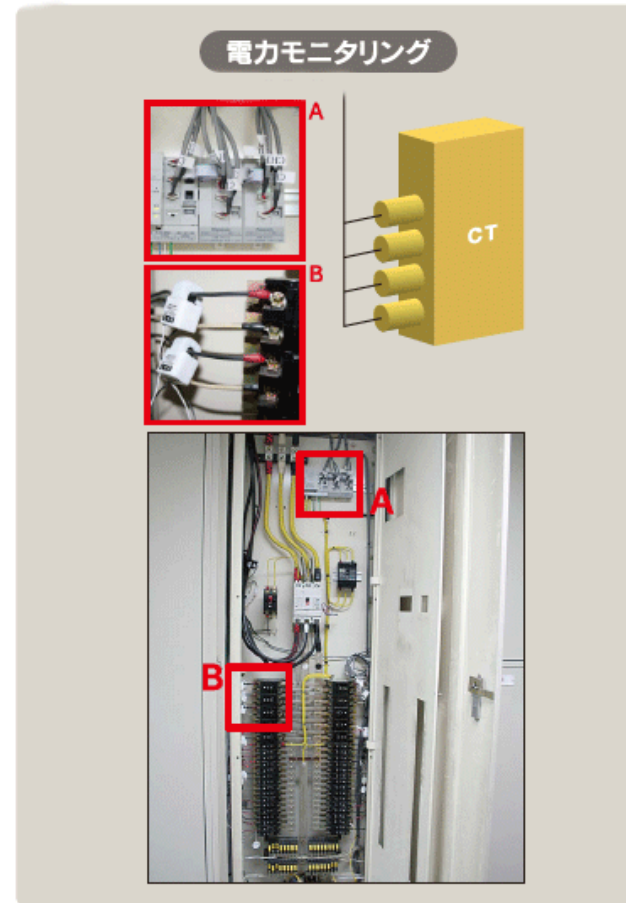
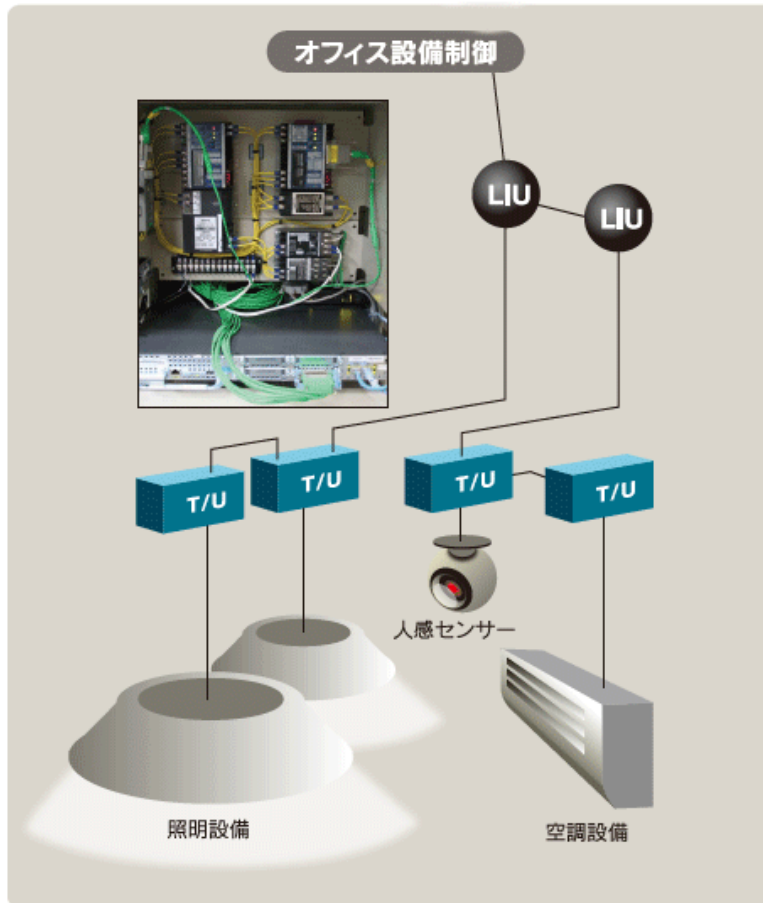
※ BACnet/WS機器については、今後サポート予定です。

運用イメージ

- ITシステム(スケジューラ)と設備システムの連携導入事例
 - 照明、空調、人感センサなどの設備を配置
 - ルータを経由して各機器のリモコン機能を制御します。
 - 既存スケジューラ(サイボウズ)を連携させ、利用時のみ自動運転
 - Ex.) 会議利用10分前に空調運転開始。入室時に照明を点灯します。

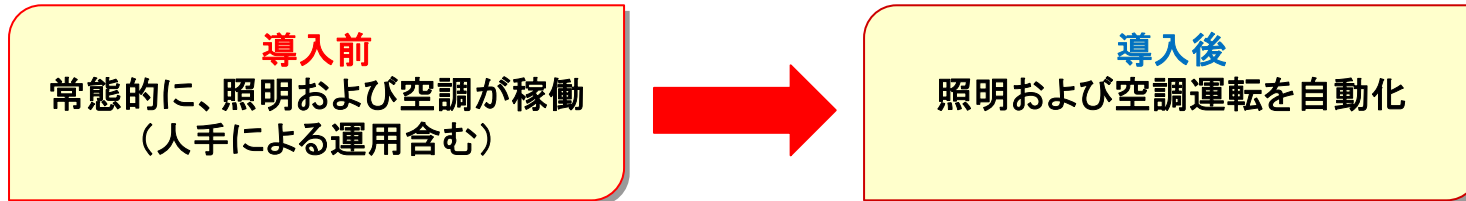


システム・イメージ(設備連携制御)

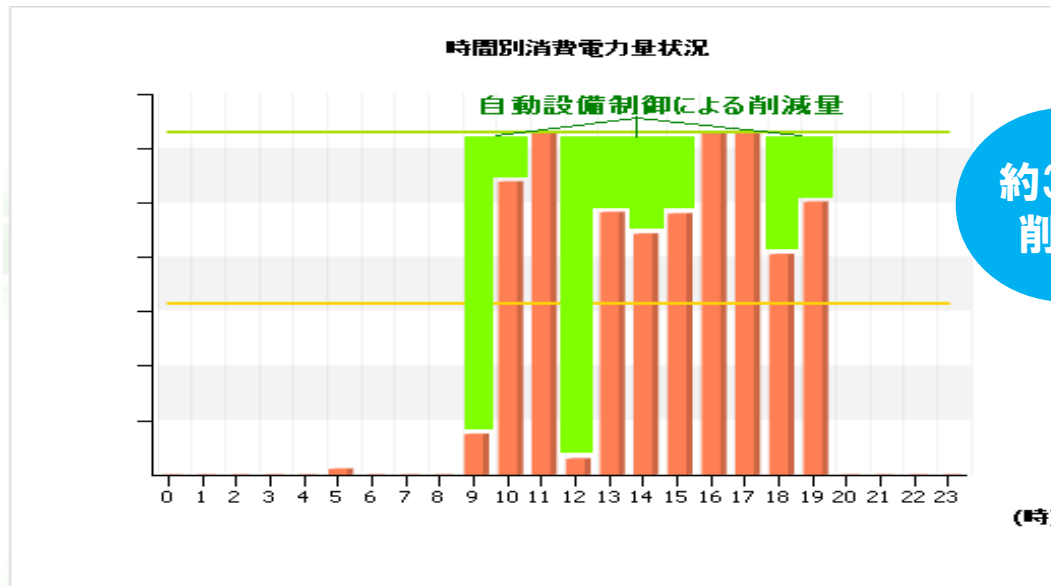


ROIの事例

Ex.) ある会議室の設備稼働に対する効果(1ヶ月間)



会議室の設備稼働状況のグラフ



約30%
削減

導入後の削減効果(1ヶ月)

電力量	1,554.652 [kwh]
原油換算	397.130 [L]

↓

CO2排出量 ≒ 656.477 [kg]

詳細な制御 + 自動化 → **約30%削減**

SaaS TYPEの新製品提供開始 「UBITEQ-G-SERVER」・「UBITEQ-G-PILOT」

UBITEQ-G-SERVER

< サービスを提供するためのサーバーソフト >

- ・**ルームビューア**
フロアマップ上での照明や空調などの設備機器管理
画面操作により設備機器の制御
- ・**データビューア**
設備の稼動状況や設備の電力使用量のデータを グラフ化して表示
- ・**その他**
スケジュール連携
メールアラート
電力デマンド通知
カスタマイズの為のツール群
報告書作成
サービス追加に応じて様々な機能がご利用できます

UBITEQ-G-PILOT

< サーバーへデータを送受信する端末&組み込みソフト >

照明制御／データ取得
空調制御／データ取得
IPカメラ連携
人感センサ連携
電力使用量取得

< 特長 >

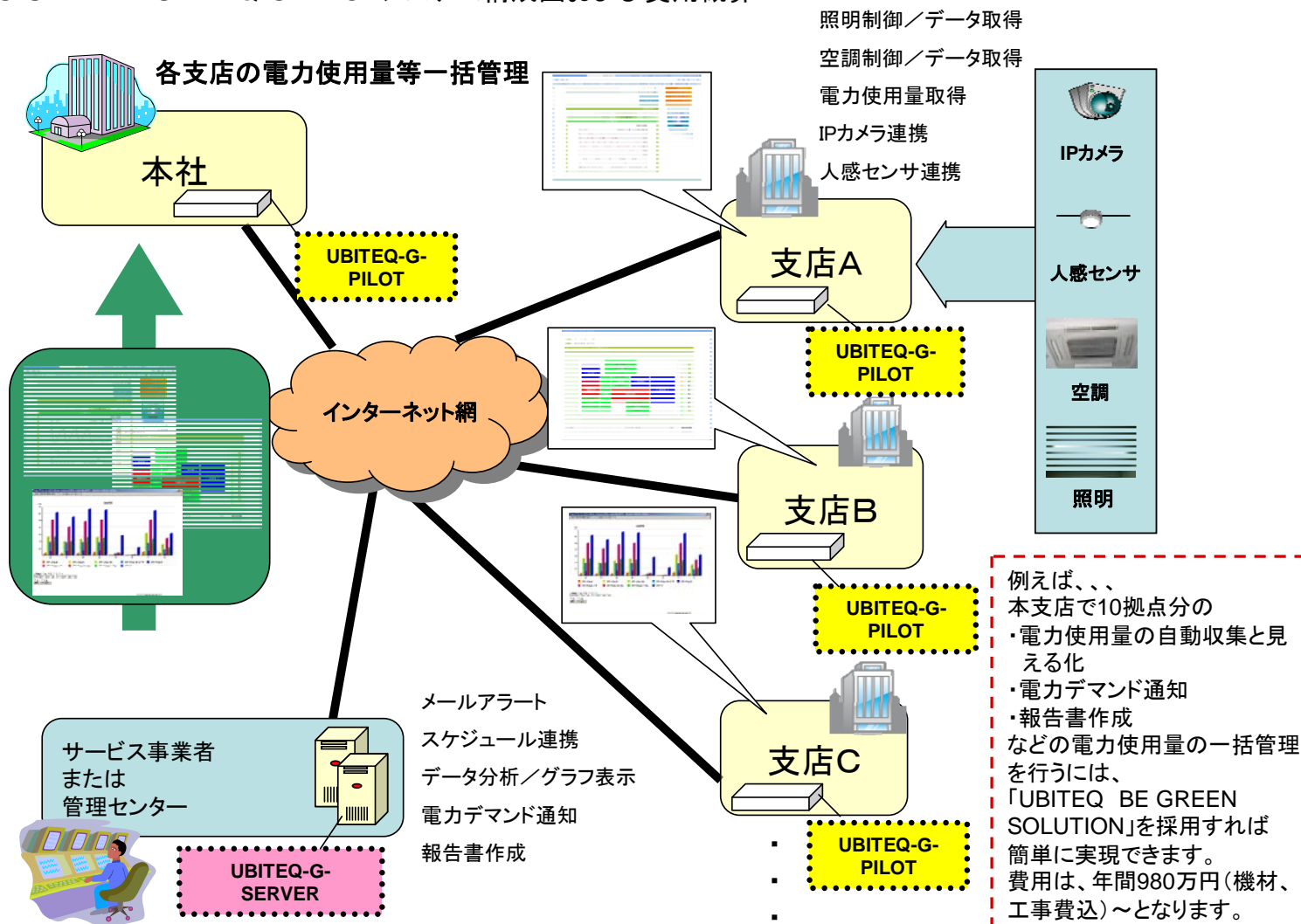
- 今まで出来なかった**多拠点管理**や**各拠点同士での連携**を可能
- 各拠点の電力使用量等を**サーバーで一元管理**
- 月額利用が可能のため、**低コスト**での導入実現
- サーバー管理者が常に**最新のアプリケーション**を提供

SaaS TYPEとは・・・

- 必要な機能を必要な分だけサービスとして利用できるようにしたソフトウェア(主にアプリケーションソフトウェア)もしくはその提供形態のこと。一般にはインターネット経由で必要な機能を利用する仕組みで、シングルシステム・マルチテナント方式になっているものを指す。

SaaS TYPEの新製品提供開始 「UBITEQ-G-SERVER」・「UBITEQ-G-PILOT」

UBITEQ-G-SERVER・UBITEQ-G-PILOTシステム構成図および費用概算



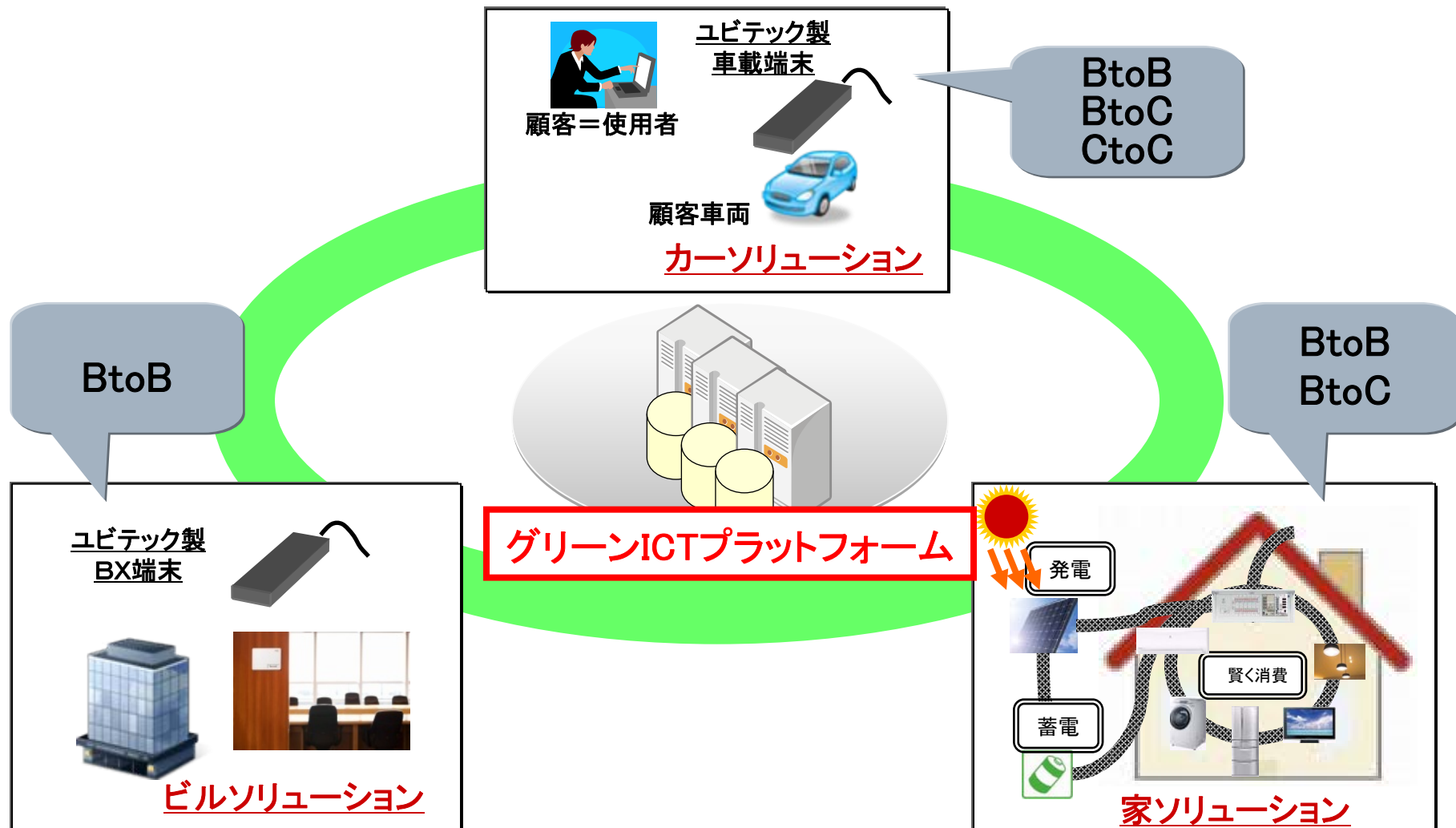
合計10拠点

*工事費は現地調査の上、正式にお見積りとなります。

グリーンICTプラットフォーム事業へ！

ユビテックの創造するグリーンICTプラットフォーム

グリーンICTプラットフォームは、ネット端末 / ネットワーク / サーバーが空間(車、ビル、家)と個人や企業とを連携し、様々な情報を集め、新たな付加価値を創造する



- グリーンICTプラットフォームコンセプトの実現に向け、事業を推進。
- 将来は、オールネットワークによる連携管理でエネルギーゼロエミッションを目指す。

■ グリーンICTプラットフォームコンセプト



Green Plant

工場・付帯オフィスにおけるエネルギー消費、敷地内の発電設備のエネルギー供給量などを情報通信で統合的に管理。

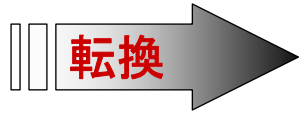


Green City

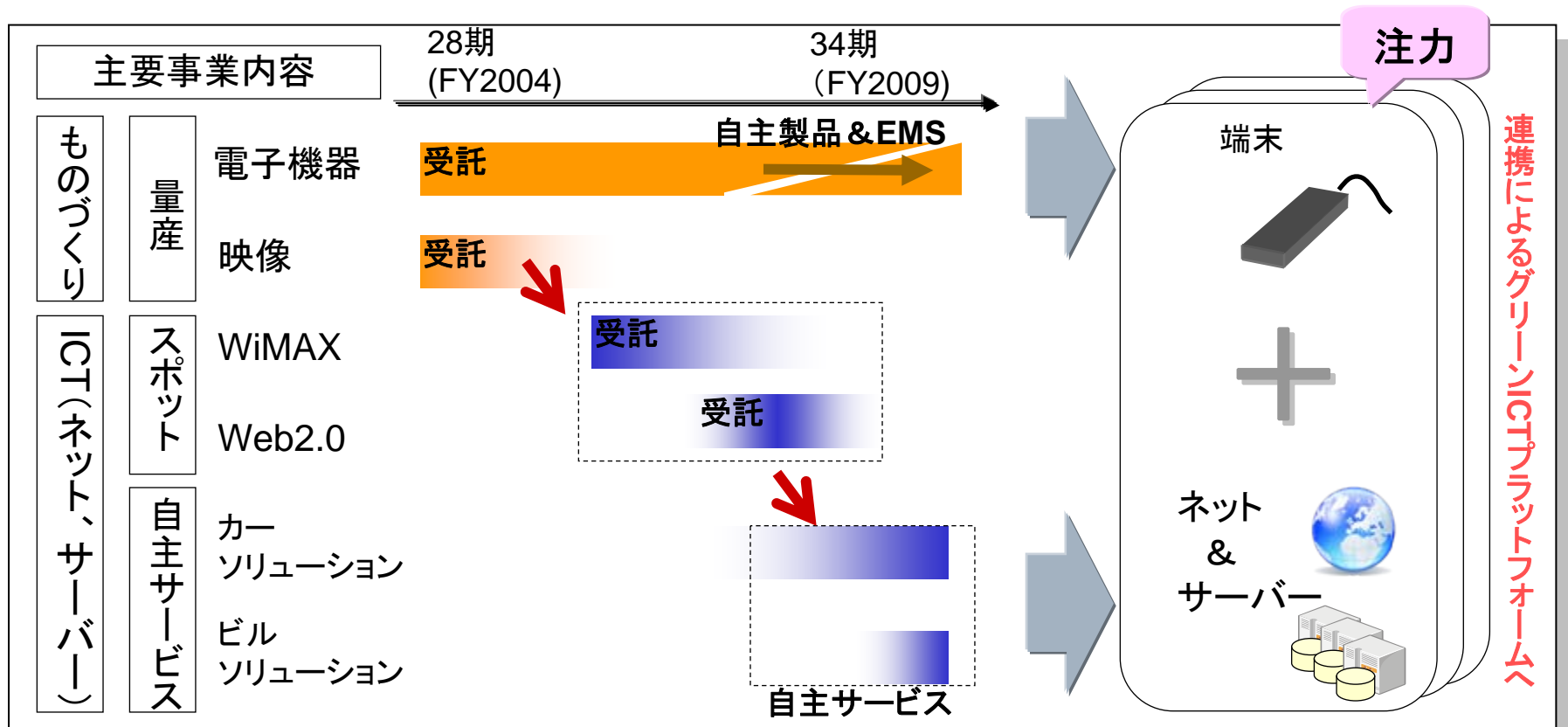
Green Plantだけでなく、グリーンICTプラットフォームを通じ地域の発電/蓄電/消費拠点を連携管理し、地産地消社会を実現。



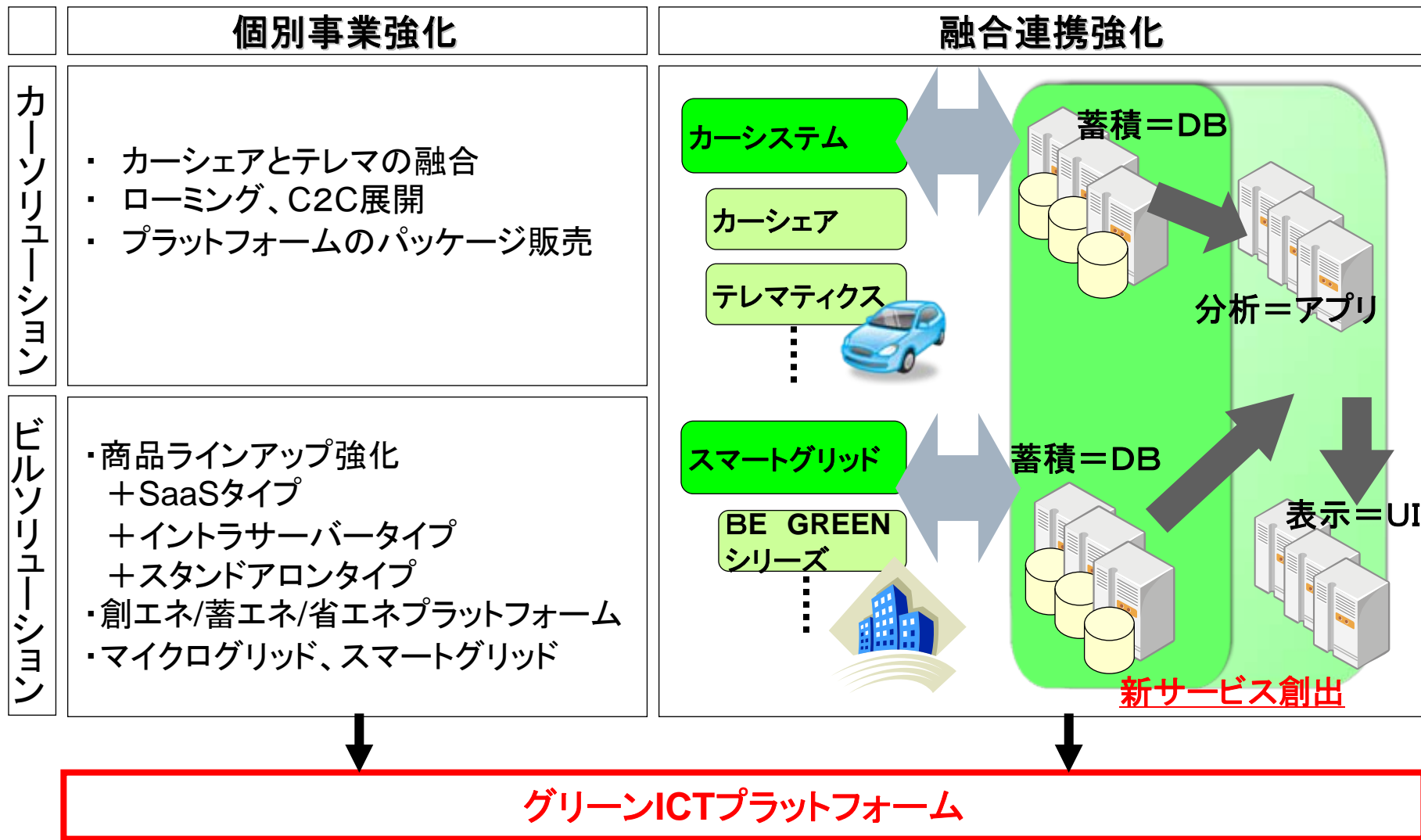
従前：
ものづくり専業



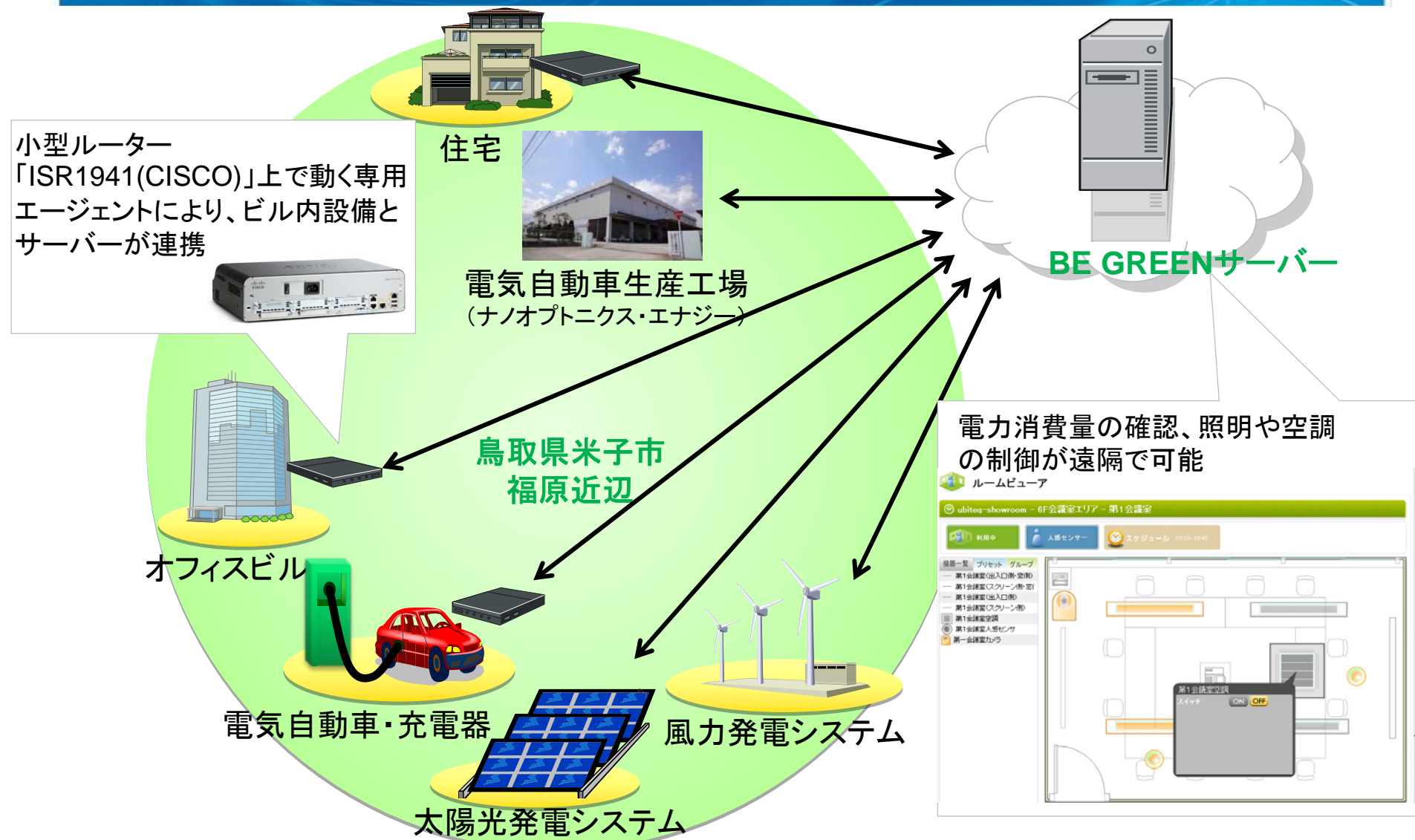
これから：
ものづくり&ネット&サーバー=サービスビジネス



● 「個別サービス事業の強化発展」 × 「それぞれのプラットフォームの融合連携」



GreenPlant構想でのマイクログリッドのご紹介

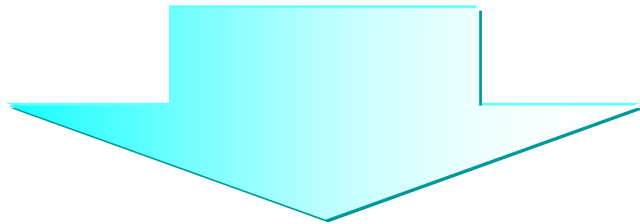


本件は、2010年6月23日付日経コンピュータにも特集をしていただきました。

2010年5月

ナノオプトニクス・エネルギーと業務提携

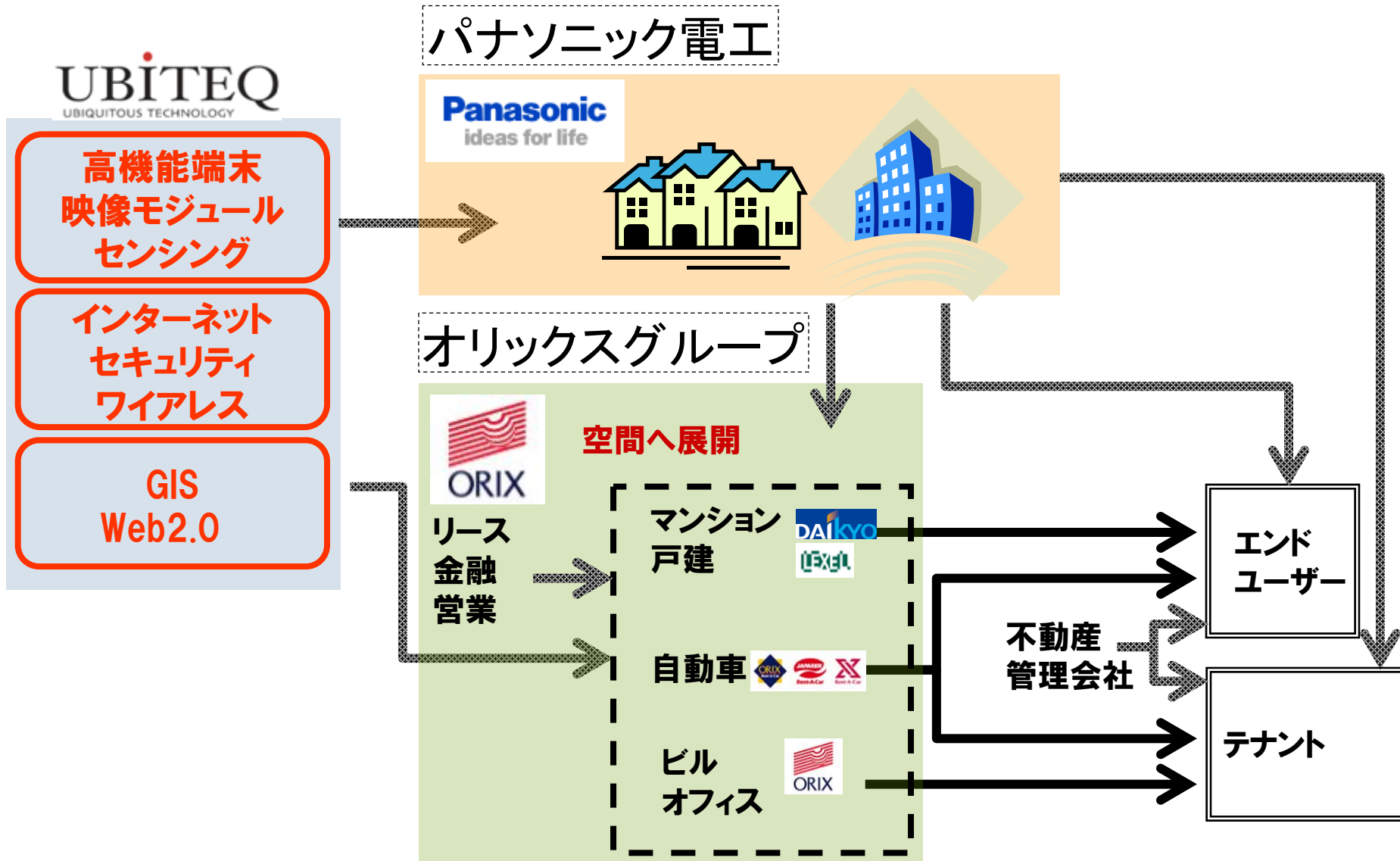
鳥取県米子市に設置する電気自動車生産工場に
CFMS by BX-Officeを導入予定



将来的には、電気自動車という環境に配慮した製品を省エネに配慮した工場で生産し、更にその製品を地域に普及促進する段階まで、ICTの活用によりトータルでサポートすることを目指す。



米子工場



「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」
を先進のユビキタス技術で実現する
新環境ソリューション

UBITEQ
BE GREEN



お客様への新しい価値提供を通じた

「半歩先」のシステムへの挑戦

ユビテックに協力させてください。

(ご参考)

- 子会社概要
（ユビテックソリューションズ）
- 受託調査研究、調査報告書、出版物

- 子会社概要

ユビテックソリューションズ 概要

商号	株式会社ユビテックソリューションズ (略称)UBISOL(ユビソル)
所在地	東京都中野区本町3-30-4 KDX中野坂上ビル 2F
代表者	代表取締役会長 荻野 司 代表取締役社長 林 雅弘
事業内容	組込み型ソフトウェアの受託開発およびシステム開発等の 人材派遣
資本金	50百万円
株主	(株)ユビテック 95%
設立日	昭和56年8月13日

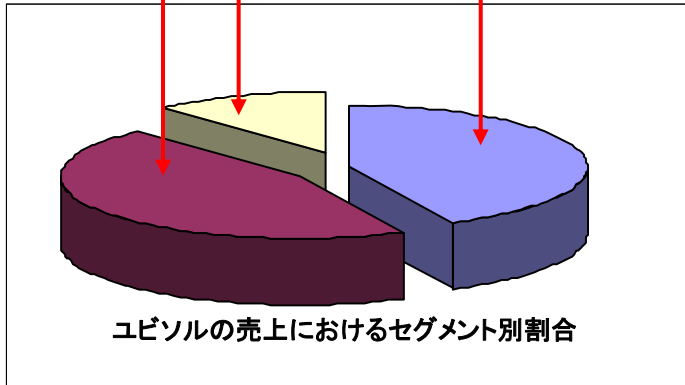
商号	UBITEQ SOLUTIONS VIETNAM, LTD.
所在地	Suite 2201, 22 nd floor, 71 Nguyen Chi Thanh Building, Dong Da District, Hanoi, Vietnam
代表者	佐藤 健司
事業内容	ベトナムにおけるソフトウェア受託開発事業
資本金	US\$150,000-
株主	(株)ユビテックソリューションズ 100%
設立日	平成19年3月22日



ユビテックソリューションズの子会社

UBITEQ SOLUTIONS VIETNAM, LTD.のオフィスビル概観

事業	主要顧客	
組込み制御	日本電子、日本無線、アロカ、A&T、東芝他	医療機器分野では臨床検査装置を始めとする各種医療分析装置の制御ソフト開発からデータ処理までを行う。また通信機器分野では、日本全国のダム、河川の水位、雨量などの防災情報を無線技術で収集・管理するシステムを開発。最近は、これらの設計業務の対応も可能。
SE派遣	明治安田生命、住生情報システム他	営業システムや出納システム等の開発やシステムの安全稼働に貢献。
事務派遣	プリンスホテル他	データ入力等の業務支援。



不採算プロジェクト整理と単価・稼働率アップ及び品質改善対策。さらには組込み制御への注力等が業績向上に寄与。



ベトナムのオフショア拠点は、スタッフの教育・研修期間を経て、2008年4月よりパートナーと共に本格的に稼働開始

医用系の各種分析機器の開発コンサルティングおよび検査センターのSCMコンサルティングの開始

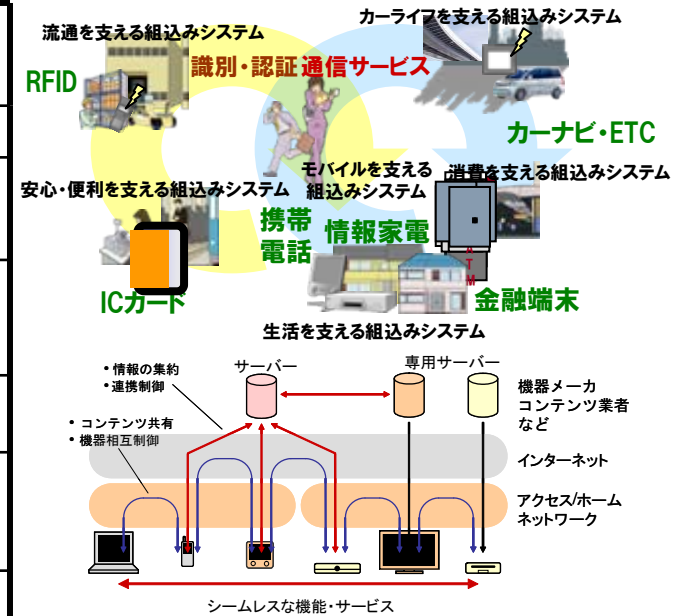
※ISO9001, ISMS, Pマーク取得でお客様に安心感と高品質を提供

- 受託調査研究、調査報告書、出版物

コンサルティング分野 調査研究

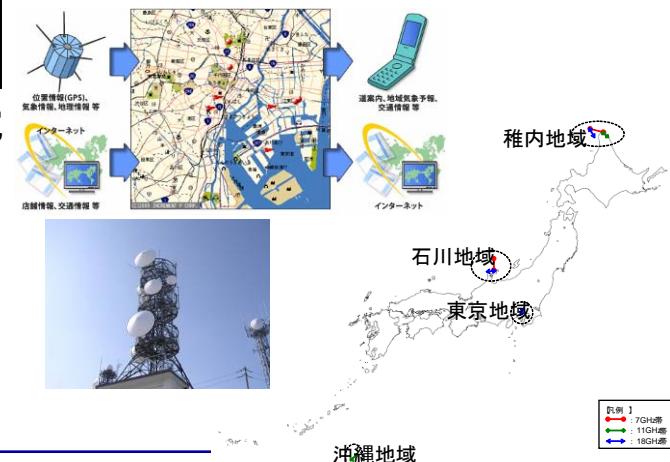
● セキュリティに関する調査研究 (IPA受託案件)

「国内外の自動車の情報セキュリティ動向と意識向上策に関する調査報告書」	平成22年度
組込みシステムのセキュリティへの取組みガイド	平成21年度
「SIPに係る既知の脆弱性検証ツール V1.0」及び「SIPに係る既知の脆弱性に関する調査報告書 改訂第2版」	平成20年度
「自動車と情報家電の組込みシステムのセキュリティに関する調査報告書」	平成20年度
最新セキュリティ情報Navi受託開発	平成20年度
複数の組込み機器の組み合わせに関するセキュリティ調査報告書 (組込みセキュリティ第2弾)	平成19年度
SIPに係る既知の脆弱性に関する調査報告書	平成19年度
組込みシステムの脅威と対策に関するセキュリティ技術マップの調査報告書 (組込みセキュリティ第1弾)	平成18年度



● ICT (Information and Communication Technology) に関する調査研究 (総務省受託案件)

無線通信技術に関する調査研究	平成19年度 平成20年度
空間情報管理技術調査	平成19年度
インターネットを用いた安全・安心情報流通	平成18年度



- 調査報告書 (<http://labs.ubiteq.co.jp/ja/activities>)
 - WiMAX製品・サービス開発動向および米国WiMAX City展開に関する調査報告書
 - Homeland Securityへの取り組み ～日本政府の取るべき戦略と民間セクターの役割～
- 出版物
 - ユビキタステクノロジーのすべて
 - クルマ・ケータイ・IP電話・RFID・Web2.0などの機器やサービスがどのような仕組みになっておりどのような技術で実現されているのかを、一般読者向けに解説
 - 企業ネットワーク IPv6導入ガイド
 - 今後IPv4からIPv6への移行がすすむ企業ネットワークにおいて、混在環境を経て徐々にリプレースしていくためのノウハウなどを体系化
 - マスタリングTCP/IP IPv6編
 - IPv6に関連する様々な側面から技術を網羅的に解説
 - マスタリングTCP/IP SNMP編
 - SNMPの基礎知識を網羅し、ネットワーク管理の全体像を基礎から管理情報の表現までをわかりやすく解説



<p>ユビキタスとは？ (Ubiquitous)</p>	<p>ユビキタスの語源はラテン語で、いたるところに存在する(遍在)という意味。インターネットなどの情報ネットワークに、いつでも、どこからでもアクセスできる環境を指し、ユビキタスが普及すると、場所にとらわれない働き方や娯楽が実現出来るようになる。</p> <p>荻野司が考える、ユビキタス社会や当社との技術については、ぜひ大証ヘラクレスインタビュー「ヘラクレスが行く！」をご一読下さい。</p> <p>■インタビューサイトURL: http://hercules.ose.or.jp/club/interview/cl-in-6662.html</p>
<p>WiMAX(ワイマックス)とは？ (Worldwide Interoperability for Microwave Access)</p>	<p>2003年1月に IEEE(米国電気電子学会)で承認された、固定無線通信の標準規格、IEEE802.16の愛称。現在普及している無線LANよりも広いカバー範囲を持ち、かつ大容量のデータをやりとりすることが出来るためユビキタス社会の通信基盤技術として注目を浴びている。</p> <p>荻野司が、スカイパーフェクトTV 757ch ビジネス・ブレイクスルー「ITライブ」の中で、今後のWiMAXの可能性について語ります。</p> <p>■番組サイトURL: http://www.bbt757.com/servlet/ShowSummary?prg_id=8411</p>
<p>IPv6とは？</p>	<p>Internet Protocol Version 6の略であり、インターネットをより多くの生活シーンで利用できるようにする、新しい基盤技術。IPv6の利用化は、IPv4におけるIPアドレスの不足を解消するとともに、ネットワークの拡大とインターネットの幅広い活用につながる。(IPv6になると、IPアドレスの数は「340潤(かん)個」、いわゆる無限大に近くなります。)</p> <p>■「企業ネットワーク IPv6 導入ガイド」(毎日コミュニケーションズ) 共著: 荻野司、江崎浩 他 監修: 村井純</p> <p>■「マスタリングTCP/IP IPv6編」(オーム社) 共著: IRI・ユビキタス研究所</p> <p>■ 著作参考サイトURL: http://www.ubiteq.co.jp/ubiq/activities/publication/</p>
<p>ユーザーエクスペリエンスとは？</p>	<p>製品やサービスの使用・消費・所有などを通じて、人間が認知する(有意義な)体験のこと。製品やサービスを利用する過程(の品質)を重視し、ユーザーが真にやりたいこと(本人が意識していない場合もある)を「楽しく」「面白く」「心地よく」行える点を、機能や結果、あるいは使いやすさとは別の“提供価値”として考えるコンセプト</p>